

① 関係市町	磐田市・菊川市・森町・松崎町		
② タイトル			
(ふりがな)	きんだいきょういくにじょうねつをかけたしずおかじんのけっしょう		
<h2>近代教育に情熱をかけたしずおか人の結晶</h2>			
③ ストーリーの概要			
<p>武士の世が終わった明治時代。新時代の担い手となる若者の教育に力がそそがれた。明治5年に学制が公布されると、各地域で校舎の新築競争がスタートした。</p> <p>県内でも伝統的な日本建築を踏襲しつつ、外見は洋風の校舎が造られた。時を超えてまちの景色と調和したたずまいは、学校としての役割を終えた現在も、子供達が初めて体感した日本の近代化の象徴として、地域の人々に愛され、語り継がれている。</p> <p>近代初期に造られた学校は、いずれもが強烈な個性を持ち、「しずおか人」の教育にかける意気込みを訪れた人に、今も伝える。</p>			
			
洋風校舎の見付学校と神社の鳥居		旧岩科学校「鶴の間」の鰻絵	
④ 代表連絡先			
担 当	磐田市教育委員会文化財課		
電 話	0538-32-9699	FAX	0538-32-9764
E-mail	bunkazai@city.iwata.lg.jp		
住 所	〒438-0086 静岡県磐田市見付 3678-1		



ストーリー

○ 近代教育の幕明け

日本は明治維新によって大きな変革の時期を迎えた。そのひとつが近代教育制度の開始である。日本が世界に向けて新たな一歩を踏み出すため、国家も積極的に取り組み、明治5年（1872）、学制が公布され、国民の誰もが自由に学ぶことができる、新しい時代にふさわしい教育がスタートした。

政府の意向を受け、日本各地で寺院等を仮の校舎として開校すると同時に、新校舎建設の動きが起こる。



遠州三大学校



西之島学校絵図  
(市指定文化財)



坊中学校

このような動きの中、新たに建てられた校舎の多くは、伝統的な建築を応用した和風の建物であったが、いち早く洋風の校舎を造った地域もあった。静岡県西部や伊豆は、当時の洋風校舎が残る地域である。地方では役所や銀行や警察署など、洋風建築が推奨されていた施設ができるのはまだまだ先の事であり、洋風校舎は多くの庶民にとって初めて見る「洋風建築」であり、「文明開化」の象徴であった。

静岡県西部（現磐田市域）では、塔屋を持つハイカラな洋風校舎が3か所に建てられた。「遠州三大学校」と呼ばれた見付学校（磐田市見付）・坊中学校（磐田市鎌田）・西之島学校（磐田市森下）である。このうち、現在残っているのは、見付学校（旧見付学校）のみであるが、坊中学校と西之島学校も跡地に石碑が残され、古写真・古絵図により往事をしのぶことができる。伊豆では（現松崎町）では、岩科学校や大沢学舎が残されている（旧岩科学校、旧大沢学舎）。なお、現存する明治時代に新築された校舎は、和風建築まで対象を広げても森町の旧城下<sup>しろした</sup>学校と菊川市の旧内田学校のみである。

○ 学校建設への苦闘

各地域は学制の公布を受け、学校を造ることになったが、初めてのことであり、幾つかの課題に直面した。まずは、教育の重要性をきちんと理解し、皆に呼びかけ、校舎建築の機運を高めてくれる指導者が必要である。地域で異なるが、ときの県令（県知事）や町村長、地元の有力者がこれを担った。見付学校では淡海国玉神社神官大久保忠尚・忠利父子ら町の有力者、岩科学校では、戸長・佐藤源吉や地元の有力者依田佐二平らがリーダーとなった。

次は、建築資金である。国からの補助金のごくわずか。山林などの共有財産の売却や資産家からの大口の寄付も頼りであるが、住民からの寄付金も募られた。どの地域でも、一般市民も子どもたちへの教育の必要を理解し、住民の大半が寄付に応じたと伝えられる。見付学校では大久保家が敷地を提供し、磐田文庫の蔵書を寄付している。とはいえ、寄付金を出せる余裕がある家は少なく、現在まで、当時の校舎が残された4つの地域には、子供達に新たな学校で教育を受けさせるために、草鞋を編んで売ったお金を寄付する「縄ない資金」や、お金だけでなく資材の提供や、材木運びなどを人々が総出で行ったことなど、労力を惜しまなかった地域の人々のエピソードが残されている。

資金の次の課題は、校舎の建築である。校舎を洋風にするか和風にするのかは、地域の人たちの考え次第であるが、誰も学校建築のデザインも建て方も知らないため、先進地を訪れての事例調査や、先進地の事例を基に建築家を呼ぶ等の工夫が各地で行われている。

### ○ 伝統と西洋との融合

見付学校では、隣接する淡海国玉神社の門を造るために来ていた名古屋の大工棟梁伊藤平右衛門に校舎建築が任された。当時、和風建築しか手掛けたことのなかった棟梁伊藤平右衛門であるが、宮大工の経験に新しい技術を巧みに取り入れ校舎を建築しており、玄関の飾り柱や、上げ下げ式のガラス窓に建築の工夫の一端がうかがえる。また、5階からの眺望は格別で、天気良ければ遠州灘が遠望できる。

岩科学校の建築を担ったのは、地元の大工棟梁高木久五郎、菊地丑太朗である。また、2階の「鶴の間」の欄間に漆喰で描かれている、千羽鶴は、地元の名工入江長八の傑作である。なお、長八の作品は、菩提寺である浄感寺には天井絵として残されており、長八の作品をおさめた美術館（伊豆の長八美術館）は、建物そのものも建築部門の賞に輝いたアートな建築である。

金銭面や技術面での苦労を重ねて、ようやく新築にこぎつけた校舎は、当時の人々の学校建設にかけ情熱と底力を今に伝えるものであり、見付学校と岩科学校はその代表格である。共に、外観やデザインは洋風であるが、様々なところに和の要素を持つとともに、地域的な素材等が用いられている。磐田市南部の掛塚は、近世から近代にかけ湊町として栄えた。船で運ばれたものの一つに、伊豆石と呼ばれる石材があり、現在も市内には伊豆石を用いた建物が残る。見付学校でも、基礎石に伊豆石が用いられている。また、基壇の石垣に使われる円礫は、破却された城から船で運ばれてきたものである。また、岩科学校の教室棟外壁の一部は、松崎町内の町屋でみられる「なまこ壁」である。地域に根付いた建築技術、建築素材を受け継いだ建築であったことも、この二つの校舎が、時を経て新たな校舎が建てられても、建物自体が地域の宝として人々に愛され続けている理由のひとつであろう。



鶴の間と欄間の千羽鶴（旧岩科学校）

見付学校の基礎に使われた伊豆石と石垣の円礫



見付学校の設立に尽力した淡海国玉神社神官・大久保忠尚



岩科学校建設に尽力した戸長・佐藤源吉



見付学校を建設した大工棟梁・伊藤平右衛門



新築学校法方（予算書）（旧見付学校）

## ○ 見果てぬ夢

静岡県では「有徳の人」の育成を教育理念に掲げ、家庭や地域社会総がかりでの教育の実現に取り組んでいるが、近代教育がスタートした時、地元の人々が夢に描いた将来像に立ち返ってみることも重要であろう。

現在残る明治期の校舎は、学校教育や地域の生活に関わる資料館、あるいは地区の人々が集う施設として今も活用されており、その多くが実際に中に入ることができる。旧見付学校や旧岩科学校では、当時の教室の様子が再現されており、少し固い木の椅子の座り心地からは、明治時代の学校生活に思いを馳せることができよう。旧見付学校では、子供を対象に当時の教室での、国語、音楽などの体験学習の他、地域の歴史講座等を開催している。旧大沢学舎や旧内田学校も内部が公開されている。旧内田学校の隣には現在の内田小学校があり、子供たちの元気な声が響く。

学び舎の周辺には、子どもたちが通った当時の面影を残すまちなみも残る。旧見付学校の南側には、旧東海道見付宿の面影が残るまちなみが続き、現在、売られている「栗餅」や「きんつば」は、100年を越える伝統を持つ和のスイーツで、当時の子どもたちも食したであろう。矢奈比売神社<sup>やなひめじんじや</sup>で行われる「見付天神裸祭」は、地域のまとまりが強さを今に伝えるものであるとともに、伝統に誇りを持つ見付地区の気概がうかがえる。

旧城下学校<sup>しろした</sup>のある森町城下<sup>しろした</sup>は細い道路に沿って、上から見るとノコギリの刃のように少しずつずれながら建物が建ち、秋葉灯籠や火の見やぐらなどがある情緒豊かなまちなみであり、旧内田学校の周辺は、水田と茶畑が広がるのどかな風景を見ることができる。

松崎町は、古くから港町として栄えたこともあり、旧岩科学校の外壁を特徴づける「なまこ壁」が町の至る所で見ることができ、松崎地区・岩科地区は特になまこ壁の民家が建ち並び、地元漁港で水揚げされた新鮮な海の幸も楽しめる。また、松崎町は桜葉の塩漬けの一大生産地であり、旧岩科学校の周辺でも桜葉の栽培が行われ、旧岩科学校の隣に建つ開花亭は、旧岩科村役場の建物であり、名産の桜葉餅を食せる。

さあ、現地で、ニッポンの未来を夢見た150年前の子どもたちの気分になり、当時の学校を訪れ、周辺のまちなみを歩き、当時の子どもたちが感じた、その地区の空気に触れ、見て、聞いて、学び、明治から現代への旅を楽しんでみませんか。



再現された教室の様子（旧見付学校）



旧大沢学舎内部

旧内田学校内部



再現された教室  
（旧岩科学校）

栗餅（磐田市・見付地区）



地魚の漬け丼（松崎町）

桜葉餅（松崎町）

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在
①	旧見付学校	国指定 (史跡)	地域の人々の努力によって明治8年に開校した、静岡県を代表する洋風建築の校舎	磐田市
②	磐田文庫	国指定 (史跡)	元治元年(1864)に淡海国玉神社神官大久保忠尚によって建てられた私設図書館。見付学校開校に伴い、蔵書が寄付された。	同上
③	見付天神裸祭	国指定 (無形民俗)	見付地区の伝統と地域の結束を伝える矢奈比売神社・淡海国玉神社を舞台に行われる見付地区の祭典。	同上
④	おうみくにたまじんじや 淡海国玉神社	県・市有形 (建造物)	見付学校建設時に敷地を提供した神社。遠江総社で、祇園祭が行われる。境内は学校の遊歩場として使用されてきた。	同上
⑤	やなひめじんじや 矢奈比売神社	未指定 (建造物)	淡海国玉神社とともに「見付のお天神さま」として地区の人々の心のよりどころとなっている神社。	同上
⑥	大久保家住宅	未指定 (建造物)	学校敷地を提供し、学校建設・経営や磐田文庫の設立に尽力した神官・大久保家の住宅。	同上
⑦	見付宿のまちなみ	未指定 (文化的景観)	見付学校南側に広がるまちなみ。江戸時代、東海道の宿場町として栄えた。沿線には阿多古山一里塚・脇本陣門(いずれも市指定文化財)などが点在する。	同上
⑧	「西之島学校」石碑 (若宮八幡宮)	未指定 (史跡)	西之島学校跡地に建つ。隣接して地元民から「郷社」の愛称で知られる神社が建つ。	同上
⑨	「坊中学校記」石碑 (医王寺)	未指定 (史跡)	坊中学校跡地に建つ。医王寺薬師堂敷地。学校設立に尽力した住職松村淳高の顕彰碑が建つ。	同上
⑩	しろした 旧城下学校	町有形 (建造物)	明治17年築の和風学校建築。現在も集会所として使用され、情緒あるまちなみに溶け込んだ建造物。	森町
⑪	しろした 城下のまちなみ	町指定 (建造物)	旧城下学校に隣接する古い情緒が残るまちなみ。秋葉山常夜燈(町指定)や火の見やぐらが残る。	同上
⑫	旧内田学校職員室	未指定 (建造物)	明治11年築、東遠に唯一残る近代初期の学校。内田小学校敷地内にあり、現在も内田郷土資料館として活用している(平日のみ公開)。	菊川市

⑬	内田地区の 田畑風景	未指定 (文化的景観)	上小笠川の両岸に水田が広がり、東西の丘陵の斜面から麓にかけて集落や畑、ため池などが点在する。	菊川市
⑭	いわしながっこう 旧岩科学校	国重文 (建造物)	明治13年築。なまこ壁と洋風のバルコニーを持つ和洋折衷建築。二階奥の客間「鶴の間」の欄間には入江長八が描いた千羽鶴がある。	松崎町
⑮	開花亭	未指定 (建造物)	明治8年築の旧岩科村役場。岩科学校敷地に移築され、現在は、土産物屋・喫茶店として利用される。	同上
⑯	なまこ壁のまちなみ	未指定 (伝統的建造物群)	岩科学校にも用いられている目地の漆喰を盛り上げて造るなまこ壁の建物が松崎地区や岩科地区に建ち並ぶ。松崎地区には明治商家中瀬邸や伊豆文邸などの公開施設がある。	同上
⑰	伊豆の長八美術館	未指定 (建造物・ 美術工芸品)	岩科学校の建設にも貢献し、江戸時代から明治時代にかけて活躍した左官職人・入江長八の作品を展示している。建物は、昭和60年第10回吉田五十八賞を受賞。	同上
⑱	長八記念館(浄感寺)	未指定 (建造物・ 美術工芸品)	入江長八の菩提寺であり、傑作「八方睨みの竜」がある。	同上
⑲	旧大沢学舎	町指定 (建造物)	明治6年、個人の寄付によって造られた洋風建築の公立小学校。道の駅敷地内に移築され、内部も公開されている。	同上

## 構成文化財の写真一覧

① 旧見付学校



④ 淡海国玉神社



② 磐田文庫



⑤ 矢奈比売神社



③ 見付天神裸祭



⑥ 大久保家住宅



⑦ 見付宿のまちなみ (旧東海道と見付宿)



⑩旧城下学校



⑧ 西之島学校石碑 (若宮八幡宮)



⑪城下のまちなみ



⑨ 坊中学校跡石碑 (医王寺)



⑫旧内田学校職員室





⑬内田地区の田畑風景  
(上小笠川と内田地区、正面に内田小学校)



⑬内田地区の田畑風景  
ため池から田園地帯を望む



⑬旧岩科学校



⑮なまこ壁のまちなみ



⑭開化亭



⑯伊豆の長八美術館



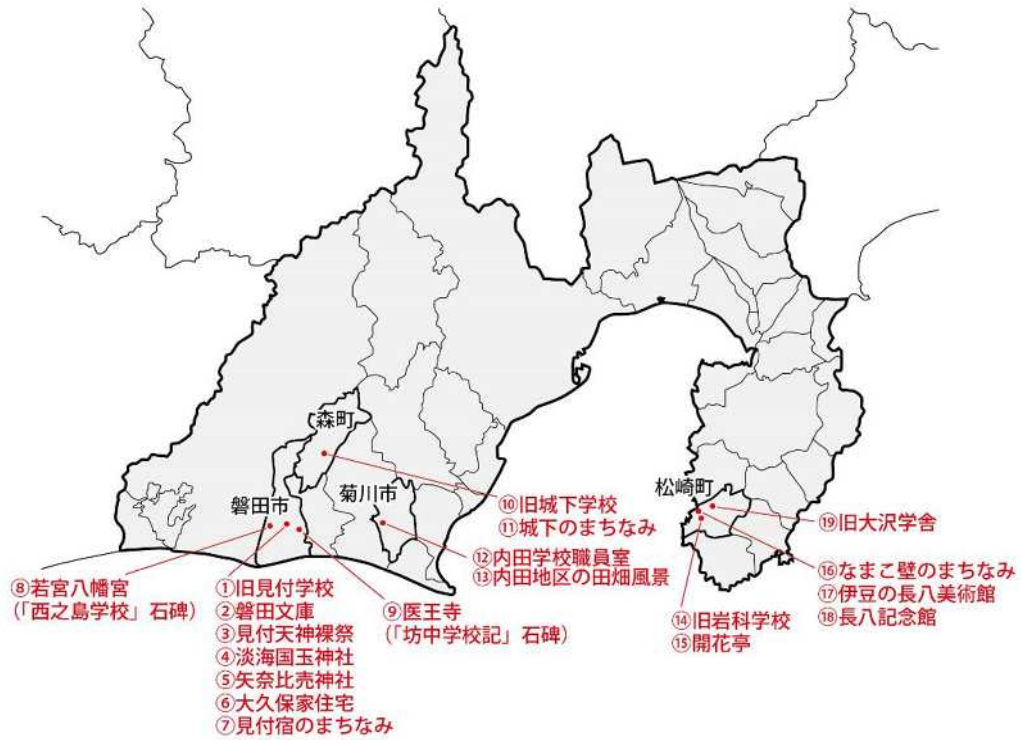
⑰長八記念館(浄感寺)



⑱旧大沢学舎



## 市町の位置図



## 構成文化財の位置図



